

(11) 東三河南部構想区域 (豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市)

(人口の見通し)

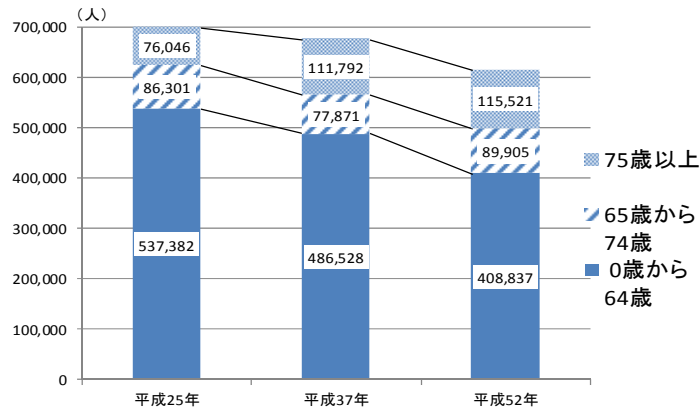
- 総人口は、減少していき、減少率は県全体より高くなっています。65 歳以上人口は増加していきませんが、増加率は県全体と比べ低くなっています。

<人口の推移>

※ () は平成 25 年を 1 とした場合の各年の指数

区 分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
	県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)
東三河南部	699,729 (1.00)	676,191 (0.97)	614,263 (0.88)	162,347 (1.00)	189,663 (1.17)	205,426 (1.27)	76,046 (1.00)	111,792 (1.47)	115,521 (1.52)

<東三河南部構想区域>



(医療資源等の状況)

- 人口 10 万対の病院の病床数は、県平均の 122.8%と多くなっていますが、一般病床数は県平均の 89.9%で、療養病床数は 2 倍以上と非常に多くなっています。人口 10 万対の医療従事者数については、医師数が県平均の 82.1%ですが、その他は 9 割程度となっています。
- DPC 調査結果 (DPC 調査参加施設 : 7 病院) によると、構想区域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病 (急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害) 及び高齢者の発生頻度が高い疾患 (成人肺炎・大腿骨骨折) の入院実績があり、区域内に急性期入院機能を有していると考えられます。

- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC 調査データに基づく緊急性の高い傷病 (急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷) の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30 分以内で大半の人口がカバーされていますが、構想区域南部の地域においては、移動時間が長くなっています。

- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成 28 年 3 月現在、構想区域内 (4 病院) において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料 (ICU)・新生児特定集中治療室管理料 (NICU)・総合周産期特定集中治療室管理料 (MFICU)・ハイケアユニット入院医療管理料 (HCU) の届出がされています。

- 平成 25 年度 (2013 年度) NDB データに基づく特定入院の自域依存率は高い状況にあります。

<医療資源等の状況>

区 分	愛知県①	東三河南部②	②/①
病院数	325	35	—
人口10万対	4.4	5.0	113.6%
診療所数	5,259	456	—
有床診療所	408	45	—
人口10万対	5.5	6.4	116.4%
歯科診療所数	3,707	335	—
人口10万対	49.9	47.9	96.0%
病院病床数	67,579	7,808	—
人口10万対	908.9	1,115.9	122.8%
一般病床数	40,437	3,423	—
人口10万対	543.9	489.2	89.9%
療養病床数	13,806	2,745	—
人口10万対	185.7	392.3	211.3%
精神病床数	13,010	1,607	—
人口10万対	175.0	229.7	131.3%
有床診療所病床数	4,801	526	—
人口10万対	64.6	75.2	116.4%

区 分	愛知県①	東三河南部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	1,137	—
人口10万対	197.9	162.5	82.1%
病床100床対	20.3	13.6	67.0%
医療施設従事歯科医師数	5,410	460	—
人口10万対	72.8	65.7	90.2%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	952	—
人口10万対	141.6	136.1	96.1%
病院従事看護師数	36,145	3,194	—
人口10万対	486.1	456.5	93.9%
病床100床対	49.9	38.3	76.8%
特定機能病院	4	0	—
救命救急センター数	22	1	—
面積 (km ²)	5,169.83	671.01	—

(入院患者の受療動向)

- 入院患者の自域依存率は、4 機能区分全てにおいて 90%を越えており、県内の 2 次医療圏の中で最も高くなっています。また、県外からの若干の患者の流入がみられます。

＜平成 25 年度の東三河南部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人／日、下段：％)

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
東三河南部医療圏	高度急性期	11	*	*	*	*	*	*	*	*	*	328	*	339	
		3.2%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	96.8%	—	100.0%	
	急性期	24	*	*	13	*	*	*	*	14	11	14	997	25	1,098
		2.2%	—	—	1.2%	—	—	—	—	1.3%	1.0%	1.3%	90.8%	2.3%	100.0%
	回復期	19	*	*	11	*	*	*	*	*	*	*	1,052	13	1,095
		1.7%	—	—	1.0%	—	—	—	—	—	—	—	96.1%	1.2%	100.0%
慢性期	*	*	0	*	*	*	0	0	*	*	*	1,713	28	1,741	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	98.4%	1.6%	100.0%	

＜平成 25 年度の他医療圏から東三河南部医療圏への流入入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人／日、下段：％)

医療機関所在地	患者住所地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
東三河南部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	15	328	*	343
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.4%	95.6%	—	100.0%	
	急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	11	*	39	997	17	1,064
		—	—	—	—	—	—	—	—	1.0%	—	3.7%	93.7%	1.6%	100.0%
	回復期	*	*	*	*	*	*	*	*	11	*	35	1,052	24	1,122
		—	—	—	—	—	—	—	—	1.0%	—	3.1%	93.8%	2.1%	100.0%
慢性期	16	*	*	*	*	*	*	11	25	24	46	1,713	118	1,953	
	0.8%	—	—	—	—	—	—	0.6%	1.3%	1.2%	2.4%	87.7%	6.0%	100.0%	

(課題)

- 療養病床が多いため、不足する機能への転換を図るとともに、在宅医療への移行を進める必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。
- 病床 100 床対の医療施設従事医師数及び病院従事看護師数が県平均と比べ極めて少なくなっており、その状況を分析し、対応を検討する必要があります。